



## コロナ禍における受診できない子供たち



いどがや内科・糖尿病内科クリニック院長  
(神奈川県学校保健連合会元代表)

川田 剛 裕

新型コロナウイルス感染拡大に起因した2020年3~4月の一斉休校に続き、多くの学校健診が延期され、実施までに時間を要する事になりました。全国保険医団体連合会が実施した学校健診後治療調査では、「要受診」とされたにもかかわらず必要な受診ができていない子供の増加やコロナ禍の子供の心身への影響等が明らかになりましたので、情報共有を図りたく筆をとりました。

本調査は2021年2~3月にかけて全国31都道府県の公立・私立小中学校、高等学校および特別支援学校の養護教員を対象に実施され、4,923校より回答が得られました。新型コロナウイルスによる影響事例としては「肥満児童・生徒の増加」が最多であり、次いで「視力低下」、「保健室利用の増加」、「虫歯のある児童・生徒の増加」などが挙げられました。一方、中学・高校生では摂食障害などによる体重減少が認められています。視力低下はスマートフォンやゲームなどの利用が増加したことや眼科検診で要受診と診断されたにもかかわらず感染リスクに対する不安に起因した受診抑制により病状が増悪したことなどが原因と考えられています。また、眼鏡を購入する上でコロナ禍における保護者の転職に伴う収入源による経済的負担が障壁となっている事例も指摘されています。歯科領域では全体的に口腔内の状況が悪化し、虫歯のみならず歯垢の付着や歯肉炎が増加していることが指摘されています。原因としては感染リスクを恐れた受診抑制や、養護教員による受診勧奨がコロナ禍を考慮し不十分であったことなどが挙げられています。

子供の健全な成長・発達を保障する上で、必要な受診を促すことについて行政、学校、医療従事者および地域が連携した包括的な対応が求められています。

